

第 1 2 9 回 東海地区三県下(愛知・岐阜・静岡)の企業経営動向調査

1. 概況

全産業の業況総合判断「D.I.」は3期連続で「好転」超が続く

- (1) 業況総合判断「D.I.」は前回比+0.1ポイントの12.5となり、3期連続の「好転」超を示した。
見通しは12.4と「好転」超幅が今回実績比で僅かながら減少を示した。
- (2) 売上高「D.I.」は前回比+3.3ポイントの25.8と「好転」超となったものの、業種別に見ると卸売業、小売業は前回比で「好転」超幅が減少している。
- (3) 収益「D.I.」は前回比▲0.6ポイントの10.5と「好転」超幅が減少し、特に卸売業が前回比▲17.6ポイントの▲2.6と大きく悪化した。
- (4) 経営上の問題点は「人材の育成」や「求人難」の「人」に関する課題が全体の4割を超えた。また、前回調査時同様、為替の円安進行により輸入原材料や燃料などの「原材料の高騰」が続いており、懸念材料となっている。

今期は、本年4月に実施された消費税率引き上げの影響により、小売業や卸売業で売上高「D.I.」、収益「D.I.」が前回比で悪化を示した。先行きを見ても慎重な予想が多く、消費低迷の長期化を懸念する声が表れている。

